



すくすく



NO. 3

平成 25 年 12 月 13 日(金)

ゆりかご幼稚園

～「幼児共育プロジェクト」より～

子ども達の心と身体を 健やかに育てるために...

ちらちら落ちてくる白い雪に大喜びの子ども達。そりすべり、雪だるま、かまくら、雪合戦。「もっといっぱい降らないかな～？」と楽しみにしている子ども達です。

さて、先月開催されました幼児共育プロジェクト「親子ふれあい公開講座」には、お忙しい中ご参加を頂きましてありがとうございました。第 1 部「親子ふれあい体操教室」では、園児がご指導を頂いているカワイ体育教室の

木村博義先生においで頂き、親子でできる運動遊びやタオルを使ってのふれあい遊びなどをたくさん教えて頂きました。子ども達には、嬉しそうな輝く笑顔がこぼれ、スキンシップの大切さを改めて感じた所でした。家庭でもこの時の遊びを思い出して、ちょっとした時間に親子で楽しく触れ合ってもらい、絆を深めてほしいと思います。当日は寒い朝でしたが、皆さんの笑顔と笑い声で身も心も温くなる思いがしました。



第 2 部「子育てわいわいグループトーク」では

『食事と子ども』『生活リズムと子ども』『遊びと子ども』の中から希望して頂いた 3 つのグループに分かれて、日頃思っている事や困っている事などを親御さん同士で話し合い、コーディネーターの先生方から、アドバイスを頂きました。グループの中でも小グループに分かれ、日頃気になっている事や悩みについて話して頂きました。初対面の方も多い中、最初は緊張した雰囲気が見られましたが、話すうちにだんだん表情が和らぎ、どのグループも和やかに話が進んでいる様子でした。終了後各コーディネーターの先生から大変ためになるアドバイスやまとめのお話をお聞きして終了となりました。参加した皆さんのアンケートにも「大変良い時間を過ごせた」「今日のことを参考にやってみます」など、「良かった」という声が沢山聞かれ嬉しく思ったところです。

終了後、講師の 4 人の先生方から「ゆりかご幼稚園の保護者の皆さんは、協力的でしっかり話を聞いて下さり、大変熱心ですね」とお褒めの言葉を頂きました。改めて保護者の皆さんの温かいご協力のおかげで、私たちは現在の保育を進めることができるのだと感謝の念が湧きあがりました。ありがとうございました。

グループトークで話し合われた 3 つのテーマは、どのお子さんにとっても日々の生活にかかわりがあり、皆さんの迷いや悩みも共通する所があるのではないかと思います。主なことをお知らせ致しますので是非参考になさってください。



細谷先生が朗読して下さった
「抱きしめるといつ会話」の詩を
ご紹介します

抱きしめるといつ会話

子どもの頃
抱きしめられた記憶は
ひとつのころの奥のほうの
大切な場所にずっと残っていく。
そしてその記憶は
優しさや思いやりの大切さを
教えてくれたり、
ひとりぼっちじゃないんだと
思わせてくれたり、
そこから先は行っちゃいけないよと
止めてくれたり、
死んじゃいたいくらい切ないときに
支えてくれたりする。
子どもをもっと抱きしめて
あげてください。
ちびちびな人間は、こども
手をのばしています。

なしグループ

「食事と子ども」

コーディネーター 栗野桂子氏



<わいわいトーク内容>

- ・同じ環境でも、兄弟で好き嫌いが違う。
- ・兄弟の上の子の真似をするので、偏食も影響を受ける。
- ・お手伝いに興味があり、できるだけ手伝わせるようにしている。
- ・はしがうまく使えない。
- ・ほめられると喜ぶ年齢なので、ほめて伸ばしていきたい。



<栗野先生のまとめとアドバイス>

- ・食べさせようとする親の努力は必要。挑戦するきっかけを作り、挑戦できた時は大いにほめましょう。
- ・「食べる事」は生きる根幹。親が自信を持って日本の文化を伝えていきましょう。
- ・生活リズムと食は大きく関係します。食の細い子は体を動かす経験をさせ、お腹を空かせてほしい。食べすぎる子は少しずつ食べる量を減らしていきましょう。
- ・「食」は家族団らんの場。「美味しいね」の言葉が団らんをもたらす。特に父親は「ママが作った物は美味しいね」の一言の工夫を。家庭で記念日を作り一緒に食べる等、我が家に団らんをもたらすために何ができるのかを考え、できることを工夫しましょう。
- ・「ダメなものはダメ」とけじめをしっかりとつけることが大事です。一度許すと子どもは学習して、その後取り返しがつかなくなることもあります。家庭内でルールを作り、家族が共通理解してみんなで守るようにしましょう。
- ・はしがうまく持てない子には、じゃんけん遊びや物を持たせるなど、指先をどんどん使わせると良い。



ぶどうグループ

「生活リズムと子ども」



コーディネーター 細谷 俊裕 氏



<わいわいトーク内容>

- ・兄弟のスポ少や父母の仕事などで、夜眠るのが遅くなる。次の日もぎりぎりに起こし「早く」を連発してしまう。
- ・朝起こしてもボーっとしていて、ごはんや洋服の着脱などケンカ腰になってしまい朝から不機嫌な状態で出かせせてしまう。
- ・夜寝かしつける時に絵本を読むことが日課になってきた。

<細谷先生のまとめとアドバイス>

生活リズム

❖早寝

- ・太陽の下で充分運動して心地よい疲れを得る。
- ・テレビを遅くまでつけておかない。家族も眠る態勢を取る。

❖早起き

- ・外の新鮮な空気を感じて目覚める、楽しく起きられる工夫。(音楽、声掛けの工夫)
- ・大人が見本を示す。
「早く」を言わず「待つ」という行為ができるように、時間に余裕を持って。

❖排泄

- ・朝の排便に心がけてあげよう!(特に男子) 時間的なゆとりと食事

❖食事

- ・『食』は『人』に『良』い『事』と書く 食は人の生き方に通じていく。

メディアとのかかわり

- ・食事中、テレビは消していますか?
- ・メディア接触は、一日何時間ですか?

メディアにおかされている心

- ・人の話をうまく聞けない
- ・コミュニケーションがとりにくい
- ・手が出やすい



「ノーテレビ(ノーメディア)デイ」を作ろう！」

「一日ってこんなに長くすごせるんだ」
「対話が増えた」



機械(メディア)では伝わらない、肌と肌の感触、温かさ、におい...ぬくもり。それを伝えられるのは乳幼児期の“今”です。

子ども達が大人になった時、目をつぶっても「母の感触、温かさ、においが 思い出せるか？」もしも思い出せたなら、その愛が悪い道に進もうとする誘い(いじめ、盗み、男女関係等の悪)に向かっ
てしまう心にブレーキをかけることができる。そんな心の中の母の存在がいつも励まし、何かの時には道標となってくれる。

りんごグループ



「生活リズムと子ども」

コーディネーター 渡辺八重子 氏



<わいわいトーク内容>

悩みや心配な事

- ・仕事をしているため子どもとかかわる時間が少ない。
- ・時間ができた時に、何をして関わればよいか（どう遊んでよいか）わからない。
- ・自然の中で遊ばせたいとは思ってはいるが、結局お金がかかる施設に連れて行ってしまふ。
- ・家事の間など、ついDVDやDSなどのゲームを親の都合で与えてしまっている。
- ・兄や姉がスポ少に入るとそちらに時間がとられ、相手をしてやることができない。

実践している事や考え

- ・15分間しっかり向き合って遊ぶと子どもは満足する。
- ・兄弟げんかは自分たちで解決させている。
- ・ゲーム、テレビは子どもと話し合い、時間を決めている。
- ・寝る前に絵本を読むことを日課にしている。



<渡辺先生のまとめとアドバイス>

- ・親の思い通りにならないのが子ども、思い通りになる子どもの方が心配。
- ・世話をやき過ぎず、自分で考え工夫させましょう。子どもは自分の心や体を思い通りに働かせることで満足感を得、生活意欲をもって成長していきます。
- ・子どもの「言うがまま」にする方が親は楽ですが、我慢することを教えるのは大事なこと。子どもに我慢させるには、親が気持ちを強く持たなければならない。叱って我慢させるのではなく、理由をきちんと話しできた時はほめ「お母さん嬉しい」と感動を伝えましょう。我慢の心は急には育ちません。
- ・子どもは大人の真似をして育ちます。良いお手本を示しましょう。
- ・しつけは温かい愛情をもとに焦らず繰り返し教え、待つことが大事。
- ・おおらかに見守り、聞き上手になりましょう。愛された子供は心が安定し、親を信頼し、自分に自信を持ち人の注意も素直に聞きます。

悩みは人それぞれですが、我ら子育て仲間の「ゆりかごファミリー」です。この機会にたくさんの親御さんと話し、知り合えたことは心強いですね。

今回の「幼児共育」で、少しでも参考になることを見つけて頂けたら幸いです。そして心配なこと等、何かありましたらいつでもご連絡下さい。共に考え共に歩いていきましょう。